

普及活動情勢報告（令和元年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

本年度の普及指導活動の取り組みについて ～高南地区農業改良普及推進協議会の開催～



本年度の活動方針を
普及所長が説明

5月28日、普及所が高南地区農業改良普及推進協議会を開催し、農業者代表、役場及びJA職員など24名が出席しました。

協議会では、各課題のチーム長などが本年度の普及指導計画について説明し、農業者代表等の協議会委員と情報交換を行いました。

協議会委員からは、「女性を対象とした農業用機械操作研修が大変役だった。研修を知らない方もいるので広く紹介してあげて」「茶摘採機を整備したいので支援してほしい」などの要望がありました。

普及所は、今後も四万十町の農業・農村の発展を目指し、農業者や関係機関と連携し普及活動に取り組んでいきます。

農業所得の向上にむけて ～経営分析・診断個別説明会の開催～



経営分析・診断結果を
説明する普及指導員ら

5月29日、6月5、6日、JA高知県四万十ニラ生産者を対象に、経営分析・診断個別説明会を開催し、農家25戸が参加しました。

普及所は、JAと協力して作成した経営分析・診断結果を基に、農家ごとにその結果を説明しました。農家からは、新たな栽培方式の導入や労働力確保、収量増などの課題が出され、それら課題の改善策や目標を農家と関係機関が共有しました。

普及所は、関係機関と連携し、農家の更なる所得向上と経営の安定化に向け、課題解決の取り組みを支援していきます。

水田作スマート農機の操作を体験 ～スマート農業実演見学会の開催～



直進キープ機能付田植機
を操作する参加者

6月11日、スマート農業実証事業に取り組む営農支援センター四万十（株）が、直進キープ機能付田植機とラジコン草刈機の実演見学会を開催し、集落営農法人、関係機関の職員等約50名が参加しました。

操作を体験した方からは、「初めての田植機操作でも真っ直ぐ植えることができた」「担い手不足が深刻になっていくので、作業の省力化を考えていく必要がある」といった感想が聞かれました。

普及所は今後も、集落営農法人や中山間農業複合経営拠点などを対象に、スマート農業の普及に向け情報発信に取り組んでいきます。

異物混入防止に向けて ～JA高知県幡多地区大正支所雨よけシシトウ目慣らし会の開催～



シシトウを確認する
生産者

6月11日、JA高知県幡多地区大正支所出荷場で雨よけシシトウの目慣らし会が開催され、生産者5名が参加しました。

JAは、シシトウの出荷規格や、調製作業、農薬散布時の注意点について説明しました。普及所は、異物混入防止に向けた調製作業方法について説明しました。

生産者からは、実際に出荷された果実を見ながら、果実の尖り具合や大きさなどについて確認していました。

普及所は、今後もJAと連携して、調製作業場の異物混入防止に向けて取り組んでいきます。

ニラの生産安定に向けて ～JA高知県四万十ニラ部会通常総会の開催～



総会での講演の様子

6月13日、JA高知県四万十支所でJA高知県四万十ニラ部会通常総会が開催され生産者47名が参加しました。

総会では、事業実績・計画と収支決算・予算等について審議し承認されました。また、市場や園芸販売事業本部担当者からの市場動向や出荷販売状況報告がありました。

普及所は、出荷場向けと個人向けの計量結束機の紹介や経営状況の報告、実証ほの試験結果、担い手育成センターの実証成果についての情報提供を行いました。農家は、計量結束の共同化に関心が高く、熱心に説明を聞いていました。

普及所はJAと協力し、今後も産地の発展に向け支援していきます。

昔野菜を未来につなぐ ～十和地区の小学校での昔野菜種取り体験の開催～



昔野菜をつなぐ大切さを
児童に説明する普及
指導員

6月10日、四万十町十和地区の小学校3、4年生（昭和小9人、十川小12人）が、昔野菜（カブ、ダイコン、高菜）の種取り体験をしました。

普及所は、昔野菜を次代につなぐ大切さなどについて説明しました。児童たちは、地元大道地区の農家から、「てみ」で種をふるい分ける作業などを教わり、各自が体験しました。児童からは、「昔野菜はいつから作られていますか」「何種類くらいありますか」などの質問が出されました。

今後は、9月に種まき、1月下旬に収穫し、調理実習や販売体験をする予定です。普及所は、今後も地域にある伝統作物の伝承活動や食育を支援していきます。